

Shimizupedia（しみずっペディア）

清水地域の文化財などの情報を紹介します。

現地説明板や旧清水町が発行した広報紙などに掲載された内容を中心に、清水地域内の国・県・市指定文化財を紹介しています。

<制作：2017年1月 福井市清水総合支所>
<修正：2022年11月 福井市市民課清水連絡所>

とりまとめに際して

- 現地説明板や旧清水町が発行した広報紙などに掲載された内容を中心に、清水地域内の国・県・市指定文化財を紹介しています。
- よみが難しい漢字や地名など、原本にルビが表示されている漢字については、() でふりがなをつけています。(例：天目山 (てんもくやま))
- 和暦や距離などの数値は、原本のとおり漢数字で記載しています。(例：平成二十八年、一・五メートル)
- 「今から〇〇年前」という過去の出来事の記載については、昭和 61 年 (1986 年) の発行時期が基準となっています。このページをご覧になった年から発行時期より経過した年数を足しつつお読みください。(例 2022 年にご覧になっている場合：今から百二十五年前→今から約百六十一年前)
- 文中の合併前の大字名などについては、現在の町名をと記載しています。(例：大森→大森町)
- 文中の清水町 (旧清水町) については、清水地域と修正している箇所があります。
- 概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

清水地域の指定文化財一覧

国指定 無形民俗		
P7	名称	睦月神事
	所在地	福井市大森町
県指定 史跡		
P8	名称	お城山古墳
	時代	鎌倉
	所在地	福井市小羽町
県指定 彫刻		
P10	名称	木造大日如来坐像 附 金剛界四仏
	時代	平安中期
	所在地	福井市滝波町
	備考	像高 160.0cm、肘張 79.0cm、膝張 130.0cm、座奥 100.0cm
市指定 史跡		
P12	名称	賀茂神社窯跡
	時代	古墳時代末期 (7 世紀)
	所在地	福井市加茂町 賀茂神社
	備考	工事の際に発見。須恵器平瓶 1、高杯 1 が出土
市指定 史跡		
P13	名称	在田 1 号墳
	時代	古墳時代後期 (6~7 世紀)
	所在地	福井市在田町
	備考	円墳、直径 15.0m、墳丘高 5.0m、横穴式石室
市指定 史跡		
P13	名称	在田 2 号墳
	時代	古墳時代後期 (6~7 世紀)
	所在地	福井市在田町
	備考	円墳、復原径 10.0m、墳丘高 2.0m、直刀 3、刀子 4、鉄鏃 31、管玉 9、紡錘車 1、高杯等出土
市指定 史跡		
P14	名称	護良親王御滞留伝承地
	所在地	福井市山内町
	備考	元弘の変に敗れて落ち延びた護良親王が匿われたと言い伝えのある場所。鎌倉時代の年号である元弘 2 年(1332)を刻む江戸時代末期の石祠あり

市指定 史跡		
P16	名称	結城晴朝館跡
	時代	江戸初期
	所在地	福井市片粕町
	備考	結城秀康養父結城晴朝の館跡
市指定 史跡		
P20	名称	清水山城跡
	時代	戦国時代
	所在地	福井市清水山町
	備考	伝大田小源五館跡
市指定 史跡		
P22	名称	三留城跡
	時代	戦国時代
	所在地	福井市三留町 私有地山
	備考	三富氏館跡
市指定 史跡		
P23	名称	小羽山 30 号墓
	時代	弥生後期
	所在地	福井市小羽町
市指定 史跡		
P25	名称	方山真光寺跡塔址
	時代	鎌倉時代
	所在地	福井市片山町
市指定 建造物		
P28	名称	賀茂神社脇社 祇園社
	時代	江戸初期
	所在地	福井市加茂町
	備考	3 方向回廊の奥に脇には脇障子がつくられ外陣が開放される中世神社建築のなごりをとどめる。
市指定 建造物		
P29	名称	石造八幡神社 古式鳥居

	時代	江戸初期
	所在地	福井市片山町
	備考	古輪式鳥居：「けいちゃう 18 年（1613）大工千助」の銘文がある。
市指定 建造物		
P30	名称	木造賀茂神社 大鳥居
	時代	江戸中期
	所在地	福井市加茂町
	備考	両部式鳥居、元禄年間に建立
市指定 建造物		
P31	名称	石造五輪塔
	所在地	福井市片山町
	備考	総高 114.5cm、地輪に梵字のアー、水輪の中央に阿弥陀如来坐像が刻まれ、その右に梵字のサー、左にサークが刻まれている。
市指定 彫刻		
P33	名称	木造聖観世音菩薩立像
	時代	平安末期
	所在地	福井市坪谷町 白山神社
	備考	像高 102.5cm、優しい眼差しと優美な曲線の本像は中央で制作されたものと思われる。
市指定 彫刻		
P34	名称	木造地藏菩薩立像
	時代	平安末期
	所在地	福井市坪谷町 白山神社
	備考	像高 95.5cm、ヒノキ材一木造り
市指定 彫刻		
P35	名称	木造観世音菩薩座像
	時代	室町末期
	所在地	福井市島寺町 龍雲寺
	備考	像高 23.0cm、宝髻の高く簡略化された特徴を持つ。本像は中世から近世への過渡的

		な仏教彫刻。
市指定 彫刻		
P38	名称	木造腹帯地藏菩薩像
	時代	平安末期
	所在地	福井市笹谷町
	備考	像高 52.0 c m、寄木造りの坐像で整った面相や穏やかな作風から中央で制作されたものと思われる。安産の地藏菩薩と信仰されている。
市指定 彫刻		
P10	名称	木造持国天立像 木造多聞天立像 木造聖観音菩薩立像 木造地藏菩薩立像
	時代	平安後期
	所在地	福井市滝波町第 43 号 18 番地 五智如来堂
	備考	木造持国天立像：像高 103.0 c m 木造多聞天立像：像高 105.5 c m 木造聖観音菩薩立像：像高 98.0 c m 木造地藏菩薩立像：像高 83.0 c m 一木造・内刳りなし、彫眼
市指定 考古資料		
P40	名称	片粕遺跡出土品一括
	時代	縄文中期
	所在地	福井市宝永 福井市立郷土歴史博物館
	備考	昭和 47 年 グリーンハイツ住宅団地造成 多量の縄文土器、磨製石斧、打製石斧 石錘等出土
市指定 考古資料		
P41	名称	塚越遺跡出土鉄刀一括
	時代	弥生末期
	所在地	福井市宝永 福井市立郷土歴史博物館
	備考	大正 9 年（1920）土取りの際、再発見された遺物のうち発見者に返却された鉄刀 1 と森林太郎の署名のある東京帝室博物館の受領書 1 通
市指定 書跡・典籍・古文書		
P42	名称	甕谷村絵図
	時代	江戸中期
	所在地	福井市甕谷町
	備考	元文 4 年（1739）に作図された村絵図、縦 1.4m、横 1.5m

市指定 天然記念物		
P43	名称	大杉
	所在地	福井市清水山町
	備考	目通り 3.9m、根廻り 5.5m、高さ 20.0m、枝張 16.0m、推定樹齢 600 年
市指定 天然記念物		
P44	名称	鼓岩
	所在地	福井市清水町
	備考	鼓の形をした奇岩

※ 一覧表は、文化財保護課＞福井市内の文化財のページに準じます。



しみずっペディア 睦月神事

睦月神事（むつきしんじ・むつきじんじ）は、賀茂神社（福井市加茂町）に4年に一度奉納される神事芸能です。

1. 概要

睦月神事は、賀茂神社に4年に一度奉納される神事芸能で、新年にあたって天下泰平、国家安穩、五穀豊穡を神に祈願するものです。起こりは定かではありませんが、約800年前、鎌倉時代から引き継がれてきたと伝えられています。昭和53年に国の重要無形民俗文化財に指定されている、全国でも有数の伝統行事です。

かつては、志津庄の賀茂神社の氏子八か村が二村ずつ組んで、まわり番で毎年交代で行っていましたが、多額の費用や多くの子どもの参加を必要とすることから、毎年行うことができなくなり、現在は大森町だけが4年に一度とり行っています。

奉納は、旧正月の2月14日に行われてきましたが、近年はすぐ後の日曜日に行われています。最近では、平成19年2月18日に行われました。また、明治の初めまでは、賀茂神社の拝殿で奉納されていましたが、大森の旧家の座敷、集会所を経て、現在は睦月神事会館で行われています。

2. 神事の様子

神事の年には、大森町は大人も子どもも総動員となります。2月初めから深夜に及ぶ練習を積み重ねて本番に臨みます。

当日の次第は、侍太鼓（ふれ太鼓）に始まり、賀茂神社参拝、丈揃（たけそろえ…服装を整える）、扇本、神輿渡御（扇本をはやして氣勢をあげた後、神事会館まで神輿とともに、獅子舞・奴・はやしなどが練り歩く）、明神参り（神事会館への練り込み）、油おしと張りもの（神事の祭場の決定）、祝いの中（本舞、米俵四俵の上で子どもが舞う）もどき（本舞のまね）、ささら（ささらを振り鳴らして舞う）、さいやいや（一人舞）、扇本（若者によるメインイベント。祭詞とはやしが交互に続く見せ場）、祝詞奏上、神輿還幸（賀茂神社へ）となっています。

3. 変化

睦月神事は長く続いているので、舞やはやしの節は少しずつなまったり略したりしているところもあるそうです。

4. 交通アクセス

4年毎に開催される睦月神事を行う睦月神事会館へは、京福バス菜崎線「大森」停留所を下車、徒歩すぐ。なお、この会館は、普段は開館していません。

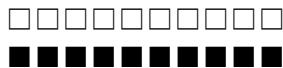
※睦月神事会館は、国指定の重要無形民族文化財の睦月神事の奉納と伝承を核とした地域住民の研修と交流の場を整備することにより、農村の活性化を図ることを目的に建設されました。

5. 周辺

睦月神事会館（大森町）
清水西公民館（大森町）
清水西小学校（大森町）
旧清水総合支所（小羽町）
地域活性化施設（平尾町）

6. 参考文献など

志津の宝ものブック 志津の庄ふるさと探訪 2009年5月 清水西公民館発行



しみずっペディア お城山古墳

お城山古墳（御城山古墳・旧後山古墳 おしろやまこふん）は、志津川が平野に流れ出た所の右岸、後山と呼ばれる独立丘（標高 51m）の上であり、墳形は前方後円墳です。

1. 概要

お城山古墳は、旧清水総合支所の正面にある小さな丘陵の頂きに造られた前方後円墳で、全長 44 mあります。発掘されていないので造られた年代ははっきりしませんが、4 世紀の末頃に造られたと考えられます。この古墳は、清水地域では一番大きいものです。

2. 伝承

平安時代末に木曾義仲の家臣、今井兼平が後山に山城を築城したという伝承があります。現在、お城山古墳を主郭とする円郭式山城が確認されていますが、これは戦国時代のものと考えられています。

3. その他

昭和 26 年、既に亡くなられた斉藤優氏によって発見され、昭和 54 年県文化財に指定されました。旧清水総合支所前の独立丘陵で、前方後円墳。素人が看（み）ても形の整った立派な古墳です。清水地域内の文化財としては、祖先が千数百年前からこの土地に住んだ何よりの証であり、大切に保存しなければなりません。

昭和 47 年、清水町（旧清水町。現在は福井市）文化財第 1 号として指定されました。

県埋蔵文化財調査センターの当時の次長、青木豊昭氏は、中世の城跡に利用された構図を書いておられますが、小規模ながら、大手（お城の表玄関）、からめ手（お城の裏玄関）、櫓（やぐら）、土塁（どるい）など、立派に整備されております。

大きさは、全長 44 メートル、高さ前方部（役場の方角）3 メートル、後円部 4 メートルです。

大森の内田建一氏は、三留町、清水杉谷町、上天下町、下天下町、小羽町、風巻町、周辺に多くの古墳群があり、その中心地で弥生から古墳時代に集落が発達し、その集団を支配下においた首長墓と考えられ、特に上天下町や下天下町、風巻町両群と関係が深いのではないかと、云っておられます。今後の研究で皆さんと共に、古代人のロマンを追ってほしいと思います。

築造されたのは五世紀と推定されております。

4. 交通アクセス

京福バス西田中宿堂線「小羽」停留所を下車、徒歩約 2 分。又は、京福バス清水グリーンライン「清水プラント 3」を下車、徒歩約 20 分。

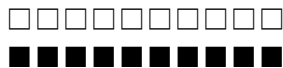
なお、古墳へ通じる登り道は整備されておらず、植生が繁茂する時期は古墳までの到達が大変困難です。

5. 周辺

旧清水総合支所（小羽町）
福井市きらら館（風巻町）
きららパーク（風巻町）
清水南公民館（風巻町）
清水図書館（風巻町）
清水郷土資料館（風巻町）
清水中学校（島寺町）
ふれあいドーム（島寺町）
清水東公民館（三留町）
清水東小学校（三留町）

6. 参考文献など

旧清水町広報紙 S63.9月号、H12.11月号
現地説明板



しみずっペディア 木造大日如来坐像 附 金剛界四仏 (五智如来)

木造大日如来坐像 附 金剛界四仏は、平安時代の作といわれる大日如来を中心に、5体の如来からなる仏像群。5体の仏像群であるため、五智如来(ごちによらい)と呼ばれています。

1. 概要

清水地域内では珍しい法量の大きな仏像群で、地方仏師の作と考えられ檜(けやき)の一本造りの像です。大日如来座像が1軀、附の金剛界四仏が4軀、計5体の仏像群で、大日如来座像の像高は160cm、肘張り79cm、膝張り130cm、座奥100cmです。

本像は、手の印相は智拳印を結ぶ金剛界の大日如来座像ですが、頭上に螺髪をいただき、偏袒右肩の衲衣をまとい、結跏趺座する像です。東密((真言密教)806年伝来)の大日如来像と思われますが、台密((天台密教)805年伝来)や雑密(密教公伝以前の密教)の可能性もあります。

この組み合わせの仏像は、大陸に近い九州の国東半島や瀬戸内の大三島など限られた所にしか分布が知られていません。それが西国から遠く離れた越前にあるということは、対岸の大陸から雑密文化がもたらされ、螺髪形の大日如来が造立されたのではないかと推定されています。

2. その他

大日如来を中心に宝生、薬師、釈迦、阿弥陀の五如来と四天王、持国、増長、広目、多聞の守護神が四隅に配置されていましたが残念ながら、広目、増長の二天は見当たりません。当初から無かったのか或いは何処かに流出してしまったかは定かではありません。この仏像群は滝波の南、野口(笹谷町の一部)境の高台、高野(たこの)に薬師堂が有り、その北方のほらが谷をはさんで五智如来堂があったと伝えられ、天正(てんしょう)年間(約400年前)一向一揆(いっこういっき)の動乱で焼失し、その時ほらが谷に落とされ、のち、現在地に安置されたと云い伝えられています。

県文化財保護委員(当時)の野村英一先生は「泰澄大師の開かれた越智山(おちさん)が修験場(しゅけんじょう)で、大谷寺がその宿坊(しゅくぼう)、その近くに五智如来堂が滝波高野に創建されたと考えられる」との事です。

縁起書には、地、水、火、風、空にして、三身円満三即一の尊像で、日本三所也と書いてあります。

3. 地元での関わり

五智如来は、滝波町ではごつつあま様とも呼ばれ、現在も自治会長初め、地元の方々が、大事に管理されています。また、お堂も平成に入ってから町内の皆さんが協力して建てたもので、五智如来を大事に守っています。

3月、6月、12月の11日(主に午後)に祈願祭が行われています。地元の皆さんあげてこの立派な文化財を守っています。

4. 伝承

行基(菩薩)ゆかりの仏像と伝えられています。滝波の集落は、古くは高野や黒谷、滝波高地など周辺の高台に住んでいた人々が、長い年月の間に現在地に移り住んだといわれており、五智如来にまつわる民話や義経伝説、言い伝えなどが多く残されています。

5. 三年余の歳月をかけて修復

五智如来5仏は、平成25年5月から3年かけ、大津市の楽浪文化財修理所で修復されました。

6. 脇仏の4軀

脇仏の4軀、聖観音菩薩立像(しょうかんのんぼざつりつぞう)、地藏菩薩立像(じぞうぼざつり

つぞう)、二天立像(持国天(じこくてん)、多聞天(たぶんてん))が、平成28年3月、市の文化財に指定されました。

7. 交通アクセス

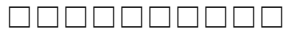
京福バス菜崎線「滝波口」停留所を下車、徒歩約10分。普段、お堂は閉まっていますが、参拝をご希望であれば、お堂入口の横に貼り出してある連絡先にお問合せください。

8. 周辺

睦月神事会館(大森町)
清水西公民館(大森町)
清水西小学校(大森町)
地域活性化施設(平尾町)
旧清水総合支所(小羽町)

9. 参考文献など

志津の宝ものブック 志津の庄ふるさと探訪 2009年5月 清水西公民館発行
旧清水町広報紙 S63.10月号
現地説明板



しみずっぺディア 賀茂神社窯跡

賀茂神社窯跡は、通称次郎谷の山裾に築かれた須恵器の穴窯です。

1. 概要

道路工事に際して発見され、今は焼成部が遺存しているにすぎません。

残存する焼成部は、幅 1.7m、高さ 1.4m で、内部は土砂で埋まっています。

遺物は、道路工事の際に出土した須恵器平瓶 1 点と高杯 1 点の他、破片が多数採取されたそうです。年代は須恵器の型式から古墳時代後期後半、7 世紀前半と考えられています。

2. 交通アクセス

京福バス菜崎線「大森」停留所を下車、徒歩約 10 分。

3. 周辺

賀茂神社（加茂町）

清水西小学校（大森町）

清水西公民館（大森町）

睦月神事会館（大森町）

旧清水総合支所（小羽町）

地域活性化施設（平尾町）

4. 参考文献など

現地説明板

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっペディア 在田 1 号墳・2 号墳

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

在田（あいだ）1 号墳・2 号墳とは、古墳時代後期に造られた古墳です。

1. 在田 1 号墳

平野部との比高差二十米の丘陵先端部に所在する。墳形は円墳で、規模は直径十五米、高さ四米を測る。埋葬施設は一九七九年に実施された試掘調査の結果、南西に開口する片袖式の横穴式石室で、全長八米と推定されている。造営時期は須恵器の破片から六世紀末ないし七世紀初頭と考えられている。

被葬者は在田地域の有力家族と考えられる。

2. 在田 2 号墳

平野部との比高差二十五米の丘陵頂部に所在する。墳形は円墳で、規模は復元径十米、高さ二米を測る。埋葬施設は一九八〇年に実施された発掘調査の結果、南東に開口する左袖式の横穴式石室で全長四・九米、玄室幅一・七米、同長さ三・四米を測る。

副葬品は石室の天井石が失われていたものの、直刀三・刀子四・鉄鏃三十一・管玉九・紡錘車一・須恵器高杯一・台付壺一・短頸壺二・杯蓋七・杯身十・埴瓶三・土師器甕一と豊富な副葬品が検出されている。この副葬品の出土状況から埋葬は少なくとも二回行われたと考えられる。

造営時期は須恵器から六世紀末から七世紀初頭にかけて埋葬がおこなわれたと考えられる。被葬者は一号墳と同じく在田地域の有力家族であろう。

3. 交通アクセス

本古墳へは、京福バス清水グリーンライン（西田中行き）「在田」停留所を下車、又は西田中宿堂線「在田」を下車、徒歩約 10 分。

なお、本古墳は私有地に立地しています。

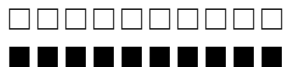
4. 周辺

清水南小学校（真栗町）

ふくい健康の森（真栗町）

5. 参考文献など

清水町の文化財 平成 5 年 4 月 旧清水町発行



しみずっぺディア 護良親王御滞留伝承地

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

護良親王御滞留伝承地（もりながしんのう又はもりよししんのう ごたいりゅうでんしょうち）とは、越前山内村（現在福井市山内町）へ難を逃れた護良親王が数ヶ月滞留した場所で、その御所跡が、御所垣地（ごしょがいち）、蓮池の字として残されています。

1. 概要

護良親王御滞留伝承地は、福井市山内町の字御所垣内（ごしょかいち）・通祢御屋敷にあります。本伝承地は元弘二年（1332）に挙兵に失敗した後醍醐天皇の皇子、護良親王が鎌倉幕府の追手を逃れ、渡辺為依（ためより）方に二月から四月にかけて難をさけて住まわれたところであると言い伝えられています。

山崎久太夫（きゅうだゆう）家の言い伝えによれば、元弘二年の四月一日に護良親王の一向を摂津山崎まで久太夫がお送り申し上げたところ、親王からご苦勞であった、ついてはお前に望みのものをとらすとのお言葉を賜ったそうで、そこで久太夫は苗字と紋所とを賜われるようお願い申し上げますと、親王は山崎まで来てくれたのだから、姓は山崎と名のるように、紋所には剣かたはみを用いるようにとのお言葉を賜ったと言い伝えられています。

なお、本伝承地には日月のくりぬきのある石の祠があり、元弘二年壬申四月一日と刻まれています。しかし、この日月のくりぬきのある石の祠は、江戸時代に田の神などを祭る祠として起前地方でごく普通に造られたもので、とくに年号の刻まれた部分の石材は江戸時代に採掘の始まった石であるので、山内に護良親王が来たとの伝承を記念して江戸時代に刻まれたものであることかわかります。

2. 護良親王について

護良親王は、後醍醐天皇の第六皇子、延慶元年（1308）に生まれました。天台座主となり尊雲と称し、世に大塔宮（おおとうのみや）と呼ばれています。還俗して元弘の変に活躍、建武の新政に征夷大將軍となりましたが、足利尊氏と反目して、鎌倉に幽閉されました。後、建武二年（1335）北条時行ら北条氏の銭党が起こした中先代の乱の最中、鎌倉から敗走する足利直義の手によって殺害されました。

3. 地元の取り組みや賀茂神社との繋がり

山内町は、昔から湧水に恵まれていましたが、近年は地下水の道が変わったのか、以前ほどではなくなったそうです。それで、山内のお清水を大切に守っていくため、町内の人が力を合わせて環境整備をしているそうです。

先に進み右手へ折れると、すぐに見える少し高くなった所一帯が護良親王（もりながしんのう又は、もりよししんのう）ゆかりの地として有名なところ。きれいに整備され、砂利がしきつめられた所にお堂が建っています。中には唐塔（からとう）と呼ばれる日月をくり抜いた石の祠が納められています。この地は、鎌倉時代に護良親王が都の争乱を逃れ山内に滞在したときに、賀茂神社の方に向かって武運を祈った遥拝所（ようはいじょ）のあった所と伝えられています。

また、この地の隣に御所垣内と呼ばれる所があり、今は人家が建っていますが、親王のお屋敷があった所と伝えられています。

4. 旧清水町史の一口噺（ひとくちばなし）

- ・京都上賀茂社と大森賀茂社

京都の賀茂神位の北北西約二キロメートルのところに、鉢を伏せたような「神山」がある。ここに神代の昔、別雷（わけいかづち）大神が天からお降りになったという。この神山（御神体）を遠くは

なれたところから拝礼するお宮が上賀茂の社である。今でもお祭りは、ここから神山に向って行われている。

ところで、大森（大森町）の賀茂神社も昔から雷神社といい、別雷大神を祭っている。現在の本殿の後の山は、上賀茂の神山（こうやま）と同じく鉢を伏せたような形である。由緒書に「昔、子丑（北北東）の方へ去る事二十丁余、大森村端の山に相祭り」とあり、また、山内の御所垣内の中に「賀茂遥拝（ようはい）所」という名が残っている。

すなわち、今から六百六十年前までは、今神社の徒にある賀茂山が雷神社の御神体で、これを遥拝する社殿は、山内御所垣内にあった。それで由緒書にあるように、源満仲が天禄年中、越前守で来任の時、山内村へ来て、雷神社の額を寄進したとか、兵部卿護良（もりなが）親王が元弘二中の春、山内村へ避難されたとかいうわけである。

護良親王の場合は突然のお越しであったので、遥拝殿や当時下賀茂社領の志津庄を治めるために京都から来ていた神官等の屋敷の屋敷を 假御所（かりごしょ）としたと考えられる。この時親王の指図により現在地に社殿を移し、親王の道中安泰のため奉持して来た下賀茂の御神符を合祀（ごうし）し、賀茂下上大明神としたものと考えられる。

5. 附記

山内（山内町）の遥拝所は、明治末まで大森賀茂神社の境外社地であった。

6. その他

鎌倉幕府末期の元弘二年（一三三一）、今から約六百六十年前、議良親王は、時の後醍醐天皇をお守りし、鎌倉幕府討幕を企てたが、これが密告され、京都六波羅の幕兵に追われ（元弘の乱）、一時、越前唯一の下賀茂社庄園志津庄（しょうえんしづのしょう）、山内村へ難をさけられた。

後醍醐帝は、反幕の計画で護良親王（帝第六皇子）を天台座主（ざす）とし、当時仏木村出身の天台僧弁応（べんのう）や賀茂神社の手引きで二月初め退避され、山内村の豪族である為依（ためより）以下庄内一円で匿（かくま）り、四月一日まで、この地を仮御所として御滞留になられた。

三月七日、後醍醐天皇が隠岐島へ流され、京の警備もゆるんだので、再挙兵のため、四月一日、河内大和（こうちやまと）の方へ戻られ、以来、長い南北朝の戦が始まった。

山内地籍には、「御所垣内（ごしょがいち）」お屋敷とか、「蓮池（はすいけ）」、弓の稽古をされたと伝えられる「的場（まとば）」、御使用水の「清水井（しみずい）」などの地名が残っている。

御所垣内には現在、御旗（みはた）をかたどった日月形（にちげっけい）に切り抜かれた唐塔（からとう）があり、元弘二年四月一日と刻まれてある。

7. 交通アクセス

本滞留地へは、京福バス清水グリーンライン（織田行き）「山内」停留所を下車、徒歩数分。

8. 周辺

睦月神事会館（大森町）

清水西公民館（大森町）

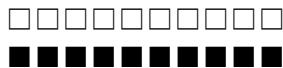
清水西小学校（大森町）

9. 参考文献など

志津の宝ものブック 志津の庄ふるさと探訪 2009年5月 清水西公民館発行

旧清水町広報紙 H2.3月号 H3.5月号

現地説明板



しみずっぺディア 結城晴朝館跡

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

藩祖秀康公養父晴朝公は、慶長6年8月より約5ヵ年間に片粕町に居住されました。

1. 概要

徳川家康は、慶長五年（一六〇〇年）、関ヶ原戦の功績によって、福井の初代藩主、結城秀康（家康二男）に、加賀前田家百十九万五千石に次ぐ越前七十五万石を与え、全国第二の大大名として越前国に人国させた。

秀康は、翌六年九月より北庄城改築にとりかかり、慶長十一年に完成した。

秀康の生母（御簾）は、結城晴朝（秀康の養父）と共に、慶長六年八月、多数の族僚を率いて北庄に入り、晴朝は従臣と共に片粕村に居を構えた。

晴朝は同九年、片粕村前に二百七十八間（約六百メートル）、片粕村後（うしろ）に八百八十間（千五百八十メートル）という長大な水路を開き、平時には農耕に、戦時には防禦（ぼうぎょ）用の堀として竣工した。

現在その屋敷跡は、民家が建ち並びはっきりしないが、今日の結城家の辺りが正面御門であったと推測される。

また、当時を思わせる屋号しらしき（城屋敷）、いくさだ（戦場）、ゆりのち（弓の家）、ばんば（馬場）などがあり、往時をしのばせている。

晴朝は慶長十一年、北庄城完成まで約五年間、この地に在居された。

2. 清水町（旧清水町）史一口噺（ひとくちばなし）片粕に隠居住まいした結城晴朝（ゆうきはるとも）

(1) 晴朝の先祖

治承四年（一一八〇）八月伊豆へ流されていた源頼朝が平氏討伐の兵を挙げ、石橋山の合戦に敗れて安房へ逃げたが、関東武士を味方にし、房総半島を北上、三万余の大軍で、十月二日隅田宿（現東京都）へ陣を取った。

その時、元頼朝の乳母、下野国（しもつけのくに）（栃木県）小山の豪族小山政光の妻寒河尼（さむかわに）が、十四才の末子七郎を連れて会いにきた。頼朝は非常に喜んで子供の頃の話で一夜を明かし、寒河尼の頼みにより、乳兄弟（ちきょうだい）の七郎を側近の武士とし、元服させて自分の一字をやり「小山七郎宗朝（むねとも）」と名乗らせた。（後に朝光（ともみつ）と改む。）

朝光は頼朝側近十一人の中に加えられて手柄をたてたので、功により結城郡（茨城県）を頂き、結城七郎朝光と稱し、頼朝から足利氏と同格の許しを受けた。結城氏初代である。

其後代々鎌倉幕府の重臣として働き分家も多く出来た。元弘建武の頃は、奥州白河（福島県）の分家、結城宗広・親光（ちかみつ）親子が南朝方として活躍、宗広は北畠顕家（きたばたけあきいえ）の補佐役をした事は有名な話である。

本家は六代朝祐（ともすけ）が、足利尊氏に属して働き、其後代々室町幕府に任せ、関東公方（くぼう）の足利氏の重臣として働いた。十一代氏朝（うじとも）の時、公方の持氏（もちうじ）民が將軍（六代）義教（よしのり）に叛いて攻められ、鎌倉で自殺した。幼い遺子（いし）春王・安王は日光に通れ（のがれ）、結城氏朝に頼った。氏朝は二王を奉じ結城に籠城、一年余幕府の大軍と戦ったが遂に落城自殺した。（嘉吉元年四月十六日）（結城合戦と云う）

(2) 晴朝の先祖（続）

嘉吉元年四月、結城落城の結果春王・安王は捕らえられ、京都へ送られる途中、関ヶ原近くの垂井で殺された。処がその年の六月、幕府の重臣赤松満祐（みつすけ）が將軍義教（よしのり）を戦勝祝賀に招いて、祝宴中將軍を部下に取り囲ませて殺した。

それで幕府では八才の子義勝を七代將軍とし、赤松満祐を攻め亡ぼした。その八年後宝徳元年（一

四四九) 信濃に逃げかくれていた持氏の末子成氏(しげうじ)が鎌倉に入り関東公方(くぼう)に任ぜられた。そこで成氏は、結城氏朝の末子成朝(しげとも)が逃げていたのを召し出し、結城城主とし結城家を再興させた。

成氏が鎌倉へ入って間もなく、関東管領(かんれい)(公方の下で関東を治める役)上杉憲実(のりぎね)(侍氏殺した仲間)の子を殺し憲実を鎌倉から追い出してしまった。それで幕府では駿河(静岡)の今川範氏(のりうじ)に命じ鎌倉を攻めさせた。成氏は鎌倉を焼き払われ下総(しもふさ)古川へ逃げここを本城とし古河公方と呼ばれる様になった。成朝は古河公方の重臣として成氏を助けて働いた。

七代将軍義勝は嘉吉三年七月赤痢で死亡(十才)。弟の義政(八才)が八代将軍となった。寛正二年(一四六一)成氏が幕府に従わないので、義政の弟政知(まさとも)を関東に下し成氏討伐を命じた。然し関東の武士はほとんど成氏に従ったため関東へは入れず、伊豆の堀越に居城を構えた。これを堀越公方呼んだ。政知には先妻の子茶々丸と後妻の子義澄があった。政知死後、義澄上京。継母と茶々丸の争に乗じ北条早雲が伊豆を占領、小田原に入り戦国大名となった。

(3) 晴朝戦国に生きる(一)

結城十六代政勝は、一子明朝(あきとも)が若死にしたので、弟高朝の二男晴朝を養子にした。時は戦国時代、政勝は重臣の意見を入れ、家臣・領民の結束と支配強化のため、結城家法百四条を定めて守らせた。

永禄二年(一五五九)八月、政勝が死んだので、二十六才の晴朝が十七代を継ぎ、家法三ヶ条を追加完成した。そして政勝の意志を継ぎ小田原の北条氏康と結んで、古河公方足利義氏を盛り吹てた。

北条氏康は、公方義氏と仲の悪い関東管領(かんれい)上杉憲政(のりまさ)を攻めて関東から追い出し自分が関東管領(自称)となった。

追い出された上杉憲政は越後に逃げ、長尾景虎に助けを求め、上杉の姓と管領職を譲った。そこで景虎は上杉景虎(謙信)と改め北条氏討伐を約束した。

永禄三年正月、晴朝が義氏護衛に関宿(せきやど)に行った時、留守をねらって北関東の領主達は上杉方に味方し北条方の結城を攻めた。これを知った晴朝は待伏(まちぶせ)している敵を破って城へ帰り、直ちに城の守りを固め、分散していた家臣を残らず結城城に集め籠城した。敵の攻撃は七日から始まったが晴朝指簿の結城勢は死力をつくして戦い敵に大損害を与えたので、遂に城を落せず和睦した。晴朝は出城をいくつも取られたが滅亡の危機をのり切る事が出来た。

九月に入ると上杉謙信は大軍を率い三国峠を越えて上野(こうずけ)(群馬県)に入り、北条氏に攻められ困っている北関東の領主達を味方にし、武蔵(埼玉)を従え、翌年三月には小田原城まで攻め込んだ。晴朝は今までの経緯(いきさつ)から謙信の軍には従わず中立の立場をとり城を守っていた。

(4) 晴朝戦国に生きる(二)

永禄四年(一五六一)三月、十一万余の大軍で小田原城を包囲した、上杉謙信は、鎌倉鶴ヶ岡八幡宮正式に関東管領に就任し、武田信玄との戦いのため、城攻めは止めて越後に引揚げ、八月には川中島で決戦をした。

永禄六年四月、謙信は北関東で唯一つの北条方、結城城を落そうと大軍を率い攻め寄せた。その時謙信方となっていた兄の小山秀綱が北条氏の援軍も無い事だからと、講和を勧めたので、謙信と和睦して謙信に従がい事なきを得た。

七年四月、謙信が越後へ引揚げると、六月には北条氏政が結城城を攻めたので、晴朝は古河公方を護るため戦わず北条氏政に従うことにした。

この様な戦いが十年余繰り返されたが、晴朝は天正三年北条氏の私物化されている古河公方を護る事を止め、北関東の佐竹、宇都宮氏等全部が力を合せ北条氏にあたる事にした。天正五年二月と六年四月、北条氏が大軍を率い攻めて来たが、協力してこれを追い払った。

その間、桶狭間の戦(永禄十年)信玄の病死(天正元年)長篠の戦(同三年)、謙信の急死(同五年加賀まで平らげ六年三月出陣の時脳卒中)と関東の情勢も変り、京都方面でも、天正十年(一五八二)六月本能寺の変、十一年四月賤ヶ岳の合戦と大きな変転があつて、羽柴秀吉の世を向える形勢となった。晴朝はこの機をのがさず六月、多賀谷(たがや)氏を京都へやり戦勝祝と友好の予紙を送り、

その返事を受けた。

晴朝は二十六才で家を継いでから約三十年間、北条上杉に挟まれ十六回の戦を戦いぬき、天正十五年九州征伐を終った秀吉の小田原出陣を待った。

(5) 秀康を養子に迎える

天正十五年（一五八七）五月、九州を平らげた秀吉は、残る関東奥羽を従えようと、十七年十一月諸大名に、小田原北条氏征伐の出陣令を出した。徳川家康には箱根の先陣、上杉景勝・前田利家には上野（こうづけ）（群馬）から南下攻撃の大將を命じ、自らは十八年三月一日、直属軍三万二千を率いで京都を出発した。四月初め、箱根の出城を攻め落とし、二十五万の大軍で海陸四方から小田原城を包囲し、出城を次々と落として行った。

晴朝はそれに応じ兵を挙げ五月初め、北条方の小山・榎本（えのもと）城を攻め落として小田原に向かい、五月二十四日秀吉の本陣へ御目通りした。秀吉は非常に喜んで六月初め、武蔵忍（むさしおし）（埼玉県行田市）城攻めに行く浅野長吉軍に同行を命じた。晴朝はその城攻めに加わり二十七日降伏開城させた。

七月五日小田原城を攻め落した秀吉は、十七日奥羽征伐のため小田原を山発した。途中二十五日、晴朝は秀吉を結城城へ案内して一泊の接待をし、秀吉を非常に喜ばせた。翌日宇都宮へ進んだが、そこで晴朝は家老を秀吉の所へやり「晴朝はもう五十七才にもなって後継ぎが無いので、適当な方をお願いしたい。」と申し上げた所、秀吉はすぐに「結城は関東の名家であるからわしの養子秀康（家康の二男十七才）を遣わそう」と即答し家康の了解を得て後継に決定した。

そこで八月六日秀康は、晴朝の外孫（そとまご）鶴子（養女）の婿となって結城へ入城、十万一千石結城家十八代を継いだ。跡を譲った晴朝は、結城の西一里、川と沼田に囲まれた舌状台地に築かれた、中久喜の栃井城に隠居した。その頃「秀康が孝行して呉れるので嬉しい。」と高野山へ書き送っている。

(6) 晴朝片粕に移る

秀康が結城城主になってから十年目、慶長五年（一六〇〇）九月十五日関ヶ原合戦があったが、その際二十七才の秀康は、石田三成方会津の上杉景勝押（おさ）えの大將として宇都宮に陣し、その追撃をくい止め手柄をたてた。その功により、十二月末越前六十八万石を与えられた。

そこで越前北庄（きたのしょう）（福井）入国準備のため六年二月、家老本多富正を越前へ下した。そして晴朝の隠居所としては、北庄の西約四キロ、日野川と沼田に三方を囲まれて、栃井城に似た要害の地片粕村を選んだ。屋敷等の工事は晴朝お抱えの大工岩村父子を片粕へ来させて行かせた。偶然か、片粕の隣には前の隠居城中久喜栃井に似た名の久喜津、栃谷がある。

五月秀康は伏見城から結城へ帰り、家康の代官伊奈備前守（びぜんのかみ）に結城城を渡し、又伏見へ戻った。晴朝に取っては、四百年の歴史を持つ結城を去らねばならなくなり、残念ではあるが秀康に従って越前へ行く決心をした。そして家臣達には、越前へ従って来るか、侍をやめて結城に残るか、他の大名に任えるかそれぞれの意志にまかせた。

七月秀康が家臣を従え伏見から北庄に入ると、晴朝は八月、秀康の母お万の方（長勝院（ちょうしょういん））正室鶴子、晴朝の家臣達を従え、はるばる結城から越前片粕村の屋敷へ入った。人数の記録は無いが何百人もの人が入って来たと思われる。

そこで秀康は、晴朝に五千石、長勝院三千石、鶴子千石、鶴子の甥水戸三七（さんしち）千石を当てがい尚（なお）岩村大工父子百石、晴朝の直臣（じきしん）三名、元からの家老山川讃岐（さぬき）多賀谷左近（さこん）が晴朝の世話につけた家臣各（おのおの）三名にそれぞれ三百石乃至（ないし）百石を与えた。

(7) 晴朝と片粕村

晴朝の館は方一町（約百メートル四方）許（ばかり）の所とあり、現在の結城・山本家の辺り、北と西は低い山、南と東は道で区切られた所、水豊かな古い井戸が二つ残っている。家臣達はそこから朝宮境へかけて住んで居た様で、中町・小人町の地名が残っている。

慶長六年九月から北庄（福井）の築城が始まり、家康の命で多くの外様大名が手伝い十一年に完成した。慶長七年、城内の漆ヶ淵（うるしがふち）（現福井駅前南通三叉路附近）に晴朝の御屋敷が出来たので、家臣を連れてそこへ移ったが、築城工事で騒々しいので、片粕館へ帰って居る事が多かつ

た。

片粕村の記録によると、慶長九年に、村前朝宮境岩渕からお宮の山の出っ張り迄約五百メートル、村後お宮から今の久喜津橋詰→更に西へ一直線に竹生の山端まで約千六百メートル、底巾九メートル・高さ三メートル・上巾（馬ふみ）三メートルの大堤防を造って日野川の洪水を防ぎ、外側を堀として城の役目もさせ、田の用水は志津川の水を三留から竹生を通して片粕へ引き、堀の用水にもしたとある。

慶長十二年閏（うるう）四月八日、秀康が三十六才で病死、その遺言により五男五郎八が結城家を継ぎ、晴朝は四才の五郎八に片粕館領五千石を譲って後見となり片粕館で育てた。

慶長十九年（一六一四）七月二十日、晴朝は故郷結城へ帰りたい望みも空しく漆ヶ淵館で死去した。八十一才。（其の十年後寛永元年、五郎八直基（なおもと）が勝山二万五千石の殿様となって移ったので片粕総は廃止された。）

4. 交通アクセス

京福バス菜崎線「新片粕」停留所を下車、徒歩約 5 分。又は清水グリーンライン「ハイツ中央」を下車、徒歩約 10 分。

5. 周辺

清水北小学校（グリーンハイツ）

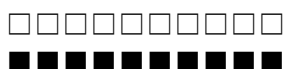
清水北公民館（グリーンハイツ）

清水東小学校（三留町）

清水東公民館（三留町）

6. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.5月号 H6.2月・3月・4月・5月・6月・7月・8月号



しみずっぺディア 清水山城跡

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご理解願います。

清水山城跡（しみずやまじょうあと）とは、戦国時代朝倉氏の武将大田家の城で、跡地には、守護神として毘沙門天が祀られています。

1. 概要

清水山城は、昔は三方日野川に囲まれた要害の地にある。ここに室町時代、守護斯波（しゅごしば）氏の家臣太田氏が城を築き、文明元年（1469）7月朝倉氏に攻め落とされるまで在城した。その後子孫の太田一吉が羽柴秀吉の馬廻りとなり中国征伐に功をたて、天正十年（1582）清水山城三千五百石を贈り越前に帰った。文禄二年（1593）豊後（ぶんご）（大分県）臼杵（うすき）城六万五千石の大名となるまで約12年在城した。

その跡を嫡子隆満（たかみつ）が秀吉の馬廻りとなり清水山城六千石を領し慶長五年（1600）関ヶ原の戦いに敗れる迄約8年在城した。

2. 武将太田氏

清水山上の日野川堤防に接し、森に囲まれた高さ約五米位の台地、これが清水山城跡である。西側中央に毘沙門の神社、天然記念物の大杉があり、その周辺に堀り切り等の跡が残り、井戸跡もある。

この台地は、元、東の三尾野（三尾野町）方へ張り出していて、日野川が南、東、北を囲む様に取りまいて流れ、自然の要害であった。ところが大正の頃、日野川改修で城跡の東半分が日野川地となり曲っていた日野川が真直になった。

この城は清水山の記録（三上武氏）によると、応永十七年（1410）越前守護斯波義重の重臣、太田貞元がこの台地に城を築いたのが始まりで、子貞重孫貞敏の三代が約六十年間在城していた。文明元年七月、貞敏が斯波義廉を助けてこの城に立籠もり、朝倉敏景の軍と戦ったが敗れ、十七日貞敏は自殺して落城、一族は義廉と共に尾張へ逃れたという。

其の後、大正十一年（1583）賊ヶ岳の戦功により、丹羽長秀が越前の領主となった時、太田貞敏の子孫で羽柴秀吉の馬廻り（旗本）となっていた太川小源五一吉が、秀吉の命により長秀の付奉行として越前清水山城二千五百石、祖先の地へ帰って来た。

天正十六年天王八坂神社の大旦那として拜殿を建て、十八年の小田原征伐には八王寺城攻撃に功をたて、美濃関一万石を加増された。

文禄・慶長の朝鮮出兵には目付奉行として渡鮮、南原攻城、蔚山籠城等の手柄により九州豊後（大分県）臼杵（うすき）六万石の大名に昇進飛騨守となる。子息隆満も秀吉の馬廻りとなって居たが、一吉が臼杵へ移ると父の跡をつぎ、清水山城六千石を領し美作守（みさくのかみ）と称した。

慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の戦に父子共西軍につき、瀬田橋の守備、臼杵籠城をしたが敗戦により降版。領土は没収されて清水山城は廃城となった。父子の清水山在城は十七年であった。

3. 交通アクセス

本城跡へは、京福バス清水山線「清水山」停留所を下車、徒歩約5分。

4. 周辺

清水南小学校（真栗町）

ふくい健康の森（真栗町）

マイドーム清水（真栗町）

5. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.11月号

現地説明板

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 三留城跡

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

三留城跡（又は三富 みとめじょうあと）は、近くの正寿寺のある三留屋敷に館があったとされています。

1. 概要

三留城は、一乗谷朝倉氏の初代敏景の六男景儀（かげのり）の子、孫六郎景冬が築いたと伝えられています。五位山の頂に本丸址があり、正寿寺のある三留屋敷に館がありました。三留城は景冬の弟景総（かげふさ）、その子景久（かげひさ）へと受け継がれ、景久の子千代雅丸（ちよがまる）が正寿寺の住職となって父祖の菩提を弔ったそうです。

2. 影冬

一乗谷朝倉初代敏景の六男景儀の嫡子景冬が、丹生北の押えとして三富（三留）に城館を構えた。館は気比社と正寿寺の間の平地と推定され、裏鬼門を気比社とし、鬼門に正寿寺を立てて護りとした。城の区域は、正寿寺の岡、気比社の岡を中心とし、南・西志津川、東は沼田（堀の跡か）北は五位山との間を堀り切り、この四方の要害に囲まれた一帯と考えられる。

影冬は、一向一揆討伐の名将敦賀城主朝倉金吾教景の甥で、孫六郎と称し教景の参謀として一揆討伐に功があった。

弘治元年（一五五五）八月土三日、加賀敷地（大聖寺北）で一向一揆と激戦中、不幸にも流れ矢にあたり戦没した。その子景信、孫景久と三代が三富に住み朝倉一門として威勢があった。

天正元年（一五七三）八月朝食義景が織田信長に亡ぼされた時、信長に降服して所領を安堵されたが、翌二年二月越前加賀の一向一揆が峰起、その大軍に三宮城を攻められ十五日、景信等は戦死し城は落ちた。天正三年信長が一向一揆を平らげた後、生き残った景久の子千代雅丸が正寿寺を復興し父祖の菩提を弔った。

現在正寿寺の附近に、御城垣内、御陣（前）垣内の地名および正寿寺の岡に城の遺構が残っている。

3. 交通アクセス

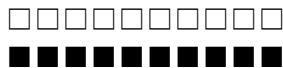
本城跡へは、京福バス清水グリーンライン「三留東」停留所を下車、又は西田中宿堂線「三留」を下車、徒歩数分。

4. 周辺

清水東公民館（三留町）
清水東小学校（三留町）
旧清水総合支所（小羽町）
福井市きらら館（風巻町）
きららパーク（風巻町）
清水南公民館（風巻町）
清水図書館（風巻町）
清水郷土資料館（風巻町）
ふれあいドーム（島寺町）

5. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.12月号
現地説明板



しみずっペディア 小羽山 30 号墓

小羽山 30 号墓は、出っ張りにある長方形の墓で、四隅突出方墳丘墓と呼ばれるものです。突出部を含めた大きさは 33m あり、巨大な弥生時代の王墓です。内部には 3. 3m の箱型木棺が安置され、鉄剣と多数の首飾りの玉が出土しています。墓の造られた時代は 2 世紀の初め頃です。北陸地方では、たいへん珍しい古墳です。

1. 概要

小羽山 30 号墓は墳丘の長さ 27m・高さ 2. 7m の四隅突出型墳丘墓（よすみとしゅつがたふんきゅうぼ）で、突出部を加えた大きさは 28×33m を測ります。墳頂部からはガラス管玉（くだたま）1・朱を磨る儀礼に用いられた石杵（いしきね）と高杯（たかつき）をはじめとする多量の土器が出土しました。

埋葬は墳丘の完成前に行われ、長さ 5. 3m の墓壙（ぼこう）に長側板の長さ 3. 7m の組合せの箱型木棺が安置され、副葬品は碧玉（へきぎょく）製管玉 103 点・ガラス管玉 10 点・ガラス勾玉（まがたま）1 点・鉄製短剣（たんけん）1 点が出土しました。

造営時期は出土した土器から弥生時代後期中頃の 2 世紀初頭と考えられ、北陸地方で最も古い四隅突出型墳丘墓です。

2. 小羽山（おばやま）の王墓

小羽の今井神社の本殿の裏山に弥生時代の終り頃の大きなお墓があります。その墓は小羽山 30 号墓と呼んでいるもので、それは小羽山で 30 番目に発見されたものという意味です。なお、古墳ではなく墓と呼ぶのは、それが弥生時代の墓であるからです。

30 号墓は長方形で 26×22 メートル、高さが 2. 7 メートルあります。長方形の四隅には亀の足のような短い突出があり、これを加えるとその規模は 33×28 メートルにもなります。この四隅に突出のあるお墓のことを四隅突出型墳丘墓と呼びます。

四隅突出型墳丘墓は山陰地方から北陸地方にかけて分布していて、現在その数は 50 ほどが知られています。この数は前方後円墳が清水地域内だけで 10 基もあることと比べることだけで、その形の墓の珍しいことがわかります。

30 号墓の内部には 5×3 メートルの穴が掘られ、その中に 3. 5 メートルの箱型の木棺が安置されていました。棺の中にはガラスの勾玉と管球、碧玉とよばれる緑色の石で造られた管球と朱が振りまかれ、西枕に安置されたと思われる遺体の胸の上には鉄の短剣が一振り置かれていました。玉と朱が振りまかれているのは埋葬の儀式で、特別な立場の「王」と言えるような人の墓でしか見つかっていないものです。また、30 号墓からは 70 個にも達する土器が埋葬の儀式に使われていて、北陸でこれ程の数の土器が墓から発見された例は他にはありません。

ところで、30 号墓の造られた年代は、埋葬の儀式に用いられた土器の形などから弥生時代後期の終り頃、2 世紀の前半頃と考えています。

30 号墓の墓の形が山陰地方の出雲で王墓の形に採用された四隅突出型であるということ、墓の規模が大きく埋蔵の儀式に使われた土器の数が北陸地方でも最も豊富であるといったことから、30 号墓を「王墓」と考えることが出来るのです。なお 2 世紀の前半に限った場合、30 号墓は越前だけではなく、越中・越後を含めた越の国の全域で最も規模の大きな墓ですので、「越の王墓」と言っても言い過ぎではないと思います。

中国の後漢書・三国志倭人伝という書物を参考にすると、2 世紀の前半は倭国大いに乱れ暦年主無しと伝えられる戦乱「倭国大乱」が吹き荒れる前夜のことでした。この戦乱は 3 世紀の初頭頃、卑弥呼という女性が王として「共立」という形で擁立されるまで数十年にわたって続いたのです。

さて、30 号墓は墓の形から出雲との間に関係のあることがわかるものですが、墓の埋葬施設の上に土器を多量に集積するという行為は、2 世紀前半に限ると幡磨・吉備・出雲・伯耆・越前でしか知られていないものです。このような埋葬の儀式のやり方が同じであるというのは、それらの地域の間

に政治的交渉があり、連合あるいは同盟といった関係があったことを示すと考えることが出来ます。そして、このような関係こそが倭国の実態であったと考えられています。

発掘調査によって、2世紀の清水地域に王と言っている人がいたことがわかりました。この王墓は、清水地域の歴史だけでなく、初期の倭国のことを考えるうえでも多くを語ってくれるものと期待されています。

3. 交通アクセス

本城跡へは、京福バス清水グリーンライン（織田行き）「福祉センター前」停留所を下車、又は西田中宿堂線「福祉センター前」を下車、徒歩数分。

4. 周辺

旧清水総合支所（小羽町）
福井市きらら館（風巻町）
きららパーク（風巻町）
清水南公民館（風巻町）
清水図書館（風巻町）
清水郷土資料館（風巻町）
清水中学校
ふれあいドーム（島寺町）
清水東公民館（三留町）
清水東小学校（三留町）

5. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.12月号
現地説明板

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 方山真光寺跡塔址

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

片山真光寺（かたやましんこうじ）は、丹生郡内に五ヶ寺の末寺を持った大きな寺院でした。鎌倉時代の創建と推定され、朝倉氏滅亡の翌年、天正2（1574）年に一向一揆によって滅ぼされました。発掘調査によって、木造塔址は五重塔であることがわかりました。

なお、この跡地は、展望が開けています。

1. 幻の寺・方山真光寺（かたやましんこうじ）

今から約五百五十年程前、京都駅南の真言宗大本山東寺にある文書の中に「越前国真光東寺（とうじ）修造料足奉加（そくほうか）人数注進状」というのがある。

それによると丹生郡方山（かたやま）真光寺奉加人数、住職光円外十八人、下寺横根寺等五ヶ寺僧七人、合計二十六人の名と金額が書かれている。

片山は「方山」新光寺は「真光寺」と書かれ、東寺の末寺で相当大きい寺であった。ところが、この寺が、いつ誰によって建てられたのか、又いつなくなったのか全然記録が残っていない。この文書は文安二年（一四四五）八月七日のものであるが、その二十三年後に、越前守護斯波義廉（しゅごしばよしかど）と朝倉敏景が戦った清水山合戦があり、また、その二十年後には、天台宗坂本西教寺の真盛上人が越前布教に来て、一乗谷朝倉氏の外護（かいご）を受けて各地に寺を建てた。今の片山西光寺もその一つと考えられる。

朝倉時代、方山真光寺の寺跡へ、朝倉家臣増井氏が械館（しろやかた）を築いて入った。二町に五町（約二百メートルに五百メートル）という広い場所であったという。西光洋は増井氏の援助により城館の南端に建てられたと思われる。

以上から考えて、真光寺はおそらく、清水山合戦に義廉方であった清水山城主太田氏に味方したため、朝倉軍の攻撃で焼かれ、僧侶は全部逃散又は戦死したのではないかと思われる。

2. 片山で五重塔跡を発掘

今回の発掘は、西光寺（さいこうじ）（片山）本堂の裏山にある、盗掘された石造塔の性格を解明するために行ったのですが、予想もしなかった木造の五重塔跡が見つかりました。

この塔は、戦国時代まで片山の新光寺にあった方山真光寺（かたやましんこうじ）という寺のものだろうと考えられます。真光寺は、室町時代の古文書に、末寺が五ヶ寺あったと書かれていることから、かなり大きな寺院であったと推測されていました。しかし、他に記録が残っておらず、その実態は全くわからない寺でした。

3. 五重塔は高さ約 30m

石造塔を調べるために、まず塔のある台上の部分とその周囲を掘っていきました。すると、1mほどの範囲に並べられた配石が出てきました。さらに掘りすすめると、1.8m間隔で配石が並んで出土したので、建物の礎石を置くための根石であることがわかりました。心柱の礎石と思われる 2mほどの石も出土しました。

この建物は鎌倉時代のものと推定され、心柱の礎石（心礎）があることから、五重塔であったことがわかりました。（平安時代以降、三量塔には心礎がなく、五重塔には心礎を持つものがありました。）

この五重塔は、一層目が 5.4×5.4m の大きさだったことから、高さが約 30m ほどあったと推測されました。屋根は瓦が全く出土しなかったので、檜皮葺（ひかわぶき）であったのかも知れません。

礎石は全部で 17 個あったはずですが、四天王の礎石 1 個と本来の位置から移動された心礎だけが残っていました。この心礎は、石造塔がのる台の石垣に転用されていました。

興味深いことに、残っていた礎石 2 個は赤く変色して、割れやはく離などが見られました。さらに、

炭や熱で溶けた銅製品が出土したことから、この五重塔は火災にあって燃えてしまったようです。そして、その跡地に石造の塔が再建されたことがわかりました。

鎌倉時代に木造の五重塔があった寺は、北陸地方では他に知られていません、このことから真光寺は、清水地域の歴史の上で他に例のない大規模な寺院であったことがわかってきました。

まだまだ謎の多い寺なので、少しずつ調査して歴史的な背景を明らかにしていきたいと考えています。

4. 片山真光寺塔跡から相隣（そうりん）が出土

前回の調査では木造の五重塔跡が見つかりましたが、今回の調査では塔の上に載せられる鉄製の相輪（そうりん）の破片（図参照）が出土しました。相輪の出土は、塔の発見以上に珍しいものです。

相輪は単なる装飾ではなく、塔に重要な意味を与えるものです。宝珠（ほうしゅ）はお釈迦様の遺骨を安置するもので、竜車（りゅうしゃ）はその乗り物を表しています。九輪（くりん）は宝輪（ほうりん）とも呼ばれる九つの輪で、大白（だいにおち）・阿閃（あしゆく）・宝生（ほうしゅ）・阿弥陀（あみだ）・不空成就（ふくうじょうじゅ）の五大如来と、普賢（ふげん）・文殊（もんじゅ）・観自在（かんじざい）・弥勒（みろく）の四大菩薩を表しています。真光寺の塔跡から出土したのは、水煙（すいえん）・九輪（くりん）・殺管（さっかん）の破片と請花（うけばな）の花びら先端の破片です。

相輪の破片が小さな断片であったのは、鋳造品のため衝撃に弱く、30m余り上から落下したために粉々に砕け散ったのだと考えられます。また、破片が少ないのは再利用のために持ち去ったためと考えられます。

相輪が出土したということは、真光寺の五重塔が完成していたことを示し、塔が火災で焼けた後に横倒しに倒れたのではなく、ほぼ垂直に崩れ落ちたことが想像できます。もし、横倒しに倒れたのならば、相輪は山の下に飛んでいって見つからなかったでしょう。また、厨子の金具と焼き物の仏像片の出土から、塔の1階（初層）に阿弥陀三尊像が厨子に入れられて安置されていたらしいこともわかってきました。

真光寺の五重塔は、復元すると今日の5階建てビルの高さに相当し、高さは35mほどになります。それは、当時の丹生郡で最も高い建物であったと思われる。しかし、一向一揆で滅ぼされたためか、末寺五ヶ寺を数えた大寺院も親光寺という集落の名になごりをとどめるだけとなり、かつて壮大な五重塔があったことも人々の記憶から忘れられてしまったのでしょう。

この発掘調査で、真光寺の塔跡についてはほぼ全容が明らかになりました。本堂など、他の建物についても、今後明らかにしたいと考えています。しかし調査の手がかりが少ないので、真光寺に関する言い伝えや遺物について、何かご存知の方がいらっしゃれば教えていただければと思います。

5. 交通アクセス

本塔址へは、京福バス清水グリーンライン清水プラント3止「清水プラント3」停留所を下車、又は西田中宿堂線「在田」を下車、徒歩約40分。

6. 周辺

清水中学校（島寺町）
福井市きらら館（風巻町）
きららパーク（風巻町）
ふれあいドーム（島寺町）
清水南公民館（風巻町）
清水図書館（風巻町）
清水郷土資料館（風巻町）
マイドーム清水（真栗町）
清水東小学校（三留町）
清水東公民館（三留町）

7. 参考文献など

旧清水町広報紙 H3.7月号 H14.1月号 H15.4月

□□□□□□□□□□

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

しみずっペディア 賀茂神社脇社祇園社

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

この祇園社は、江戸時代初期寛文九年に新築された社殿で、清水地域内の建造物の中では最も古い建造物です。

1. 概要

賀茂神社本殿に向かって右側に建てられである脇社で、二間の流れ造りの小社である。中央社殿の部分は一間四方、三方回廊で、左右回廊の奥には脇障子がつくられ、外陣が開放されている典型的な、中世神社建築の様式を備えている。母屋の庇が外陣から、約三米も前方へのびている。組み物は三斗組二手先で、かえるまたには透かし彫りの彫刻が入っている。本殿と向拝は直紅梁でつないであり、この祇園社は、江戸時代初期寛文九年に新築された社殿で、本町（清水地域）建造物の中では最も古い建造物である。

なお左がわにその十年後、延宝八年建立の白山社もある。

2. 交通アクセス

京福バス菜崎線「大森」停留所を下車、徒歩約 10 分。

3. 周辺

賀茂神社（加茂町）

清水西小学校（大森町）

清水西公民館（大森町）

睦月神事会館（大森町）

旧清水総合支所（小羽町）

地域活性化施設（平尾町）

4. 参考文献など

清水町の文化財 平成 5 年 4 月 旧清水町発行

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 石造八幡神社古式鳥居

この鳥居は、片山町新光寺（しんこうじ 片山町の一部で、地名です）の八幡神社境内に、笏谷石（しゃくだにいし）で造られた小振りの古式鳥居と呼ばれる古い形式の台輪鳥居です。

1. 概要

この鳥居は、片山新光寺の八幡神社境内に、笏谷石（しゃくだにいし）で造られた小振りの台輪鳥居で、『慶長十八年（一六一三年）丑癸八月十五日建立 大工千助』との銘が彫られています。

高さは二メートル余、柱間一・二メートルで、三百八十年の永い間、天変地異に耐え、欠損も少なく保存されています。

後世木割法が鳥居の主流となる以前の、いわゆる古式鳥居と呼ばれる古い形式のもので、二本の柱もずんぐりと太く、造りは小振りながら、どっしりと安定しています。

上下の「すばり」は、広く、笠と貫の間は狭くなり、笠の反りもゆるやかで、平均した厚みになっています。

笠木、鳥木とも両端の水切りは垂直で、古式ゆかしい鳥居の特徴を残しています。

賀茂神社の鳥居のように、主柱の両側に足桁のある（両部形式）、神仏習合の名残りをとどめた形もあり、造った人たちの心がこもっている文化財といえましょう。

みなさんも鳥居をくぐる時は、よくみてほしいものです。

2. 交通アクセス

本鳥居へは、京福バス清水グリーンライン清水プラント3止「清水プラント3」停留所を下車、又は西田中宿堂線「在田」を下車、徒歩約40分。

3. 周辺

清水中学校（島寺町）

福井市きらら館（風巻町）

きららパーク（風巻町）

ふれあいドーム（島寺町）

清水南公民館（風巻町）

清水図書館（風巻町）

清水郷土資料館（風巻町）

マイドーム清水（真栗町）

清水東小学校（三留町）

清水東公民館（三留町）

4. 参考文献など

旧清水町広報紙 H元.4月号



しみずっペディア 木造賀茂神社大鳥居

木造賀茂神社大鳥居は、賀茂神社賛同入口にある両部式大鳥居で高さは約 9m です。

1. 概要

この鳥居は、元禄年間（三百年程前）に建てられたもので、加茂杉の芯だけを利用。高さ九メートル、柱の周囲二・三メートル、柱間七・ニメートルの大鳥居です。

木造の鳥居では、広島県の厳島神社、奈良県の春日大社、敦賀の気比神宮が日本の三大鳥居に数えられています。

気比神宮は高さ十一メートル、柱間七・五メートルとなっており、比べると高さが二メートル低くなっています。

賀茂神社大鳥居は朱塗りで優美さがあり、いかにも神域を感じさせる、どっしりとした風格を保っています。型は、神仏混合からきた両部型式で、柱の前後に一本ずつの脇柱が添えてあります。柱の基礎の亀腹石も硬い自然石を使用しており、掛けてある扁額は江戸時代の福井藩儒学者、伊藤担庵の筆と伝えられています。

2. 交通アクセス

京福バス菜崎線「大森」停留所を下車、徒歩約 10 分。

3. 周辺

賀茂神社（加茂町）

清水西小学校（大森町）

清水西公民館（大森町）

睦月神事会館（大森町）

旧清水総合支所（小羽町）

地域活性化施設（平尾町）

4. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.12 月号

現地説明板



しみずっぺディア 石造五輪塔

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

石造五輪塔は、凝灰岩の組み合わせ式五輪塔で、総高 114.5 c m。造られた時代は、五輪塔の様式から室町時代の 15～16 世紀と考えられています。

1. 概要

片山（片山町）の栃谷側通称「おべらこ谷」の水田の中に、大きな五輪塔が建っている。

この塔の前通りは昔の府中（現越前市）へ通ずる街道筋として重要な道路であった。

この道路脇に建てられた五輪塔は、土地の言い伝えによると虎御前（とらごぜん）の建てた供養塔であるとか、木曾義仲の妾、巴御前（ともごぜん）の供養碑であるとかいわれている。

ともあれこの五輪塔は、町内に残っている数多い塔の中でもっとも大型で、欠損も少なく中世の代表的石造建造物として、貴重な五輪塔である。

五輪は、地、水、火、風、空という天地万物を象徴された塔で密教（みっきょう）（真言宗、天台宗がその心境を説いた教え）思想から出ている。五輪の一番下は方形（地）となっていて、次は球（水）・三角（火）・半球（風）・宝珠（空）という順に建てられている。珠体正面に阿弥陀如未座像、右に観音菩薩（サ）左に勢至菩薩（サク）の梵字による三尊仏が彫られてある。この形は平安末期頃から鎌倉時代に完成された形となり、鎌倉時代から室町時代には各地に建てられるようになり、いわゆる五輪造立の最盛期となった。

2. その他

方錐形の笠の火輪、宝珠形と半円形を組み合わせた空・風輪には何も刻まれていません。作られた時代は五輪塔の様式から室町時代十四世紀頃のものと考えられます。

片山（片山町）の五輪塔の建てられた意味は、曾我兄弟の仇討ちに登場する遊女虎御前の供養塔という伝承もあるそうです。しかし、地輪の下に骨壺を収めるための刳抜きがあったので、墓として作られたことが確かであると思います。

ところで、片山の五輪塔が建てられた室町時代の十四世紀頃、片山に真新光寺という真言宗の寺院がありました。この寺は今はありませんが、清水地域の歴史の中で最も大きな寺院であったことが遺跡の規模や京都の東寺の記録などからわかっています。このことから考えれば、片山の五輪塔は真光寺に関わる人々の墓であったとみるのが自然な理解であると思います。

3. 交通アクセス

本城跡へは、京福バス清水グリーンライン「栃谷」停留所を下車、又は西田中宿堂線「栃谷」停留所を下車徒歩約 10 分。

4. 周辺

きららパーク（風巻町）

清水南公民館（風巻町）

清水図書館（風巻町）

清水郷土資料館（風巻町）

福井市きらら館（風巻町）

清水中学校（島寺町）

ふれあいドーム（島寺町）

ふくい健康の森（真栗町）

マイドーム清水（真栗町）

5. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.6月号 H11.2月号

現地説明板



しみずっぺディア 木造聖観世音菩薩立像

木造聖観世音菩薩立像 は、清水地域内にある数少ない聖観音立像で、室町初期の中央仏師の作といわれています。

1. 概要

この観世音菩薩立像は、坪谷白山神社本殿に安置されており、町内にある数少ない聖観音立像で、室町初期の中央仏師の作といわれています。

尊顔は、端麗（たんれい）。後背（こうはい）も珍しい八葉（はちよう）の連花文（れんげもん）になっており、像高は百二・五センチあります。

木像一本彫成で、漆地（うるじ）に金箔が押しあてられています。

この観音像は、元、下の堂様に安置されていましたが、明治三十九年の神社廃合令により白山神社に合祀（ごうし）されました。

横には、立派な地蔵菩薩、四天王像が安置されています。

仏像が御神体として、今日まで続いてきたことをみなさんどう思いますか。

信仰は尊く、長い歴史が続いています。その中で、みんなで話し合い研究することは大事なことでないでしょうか。

2. 交通アクセス

本立像が安置されている坪谷町白山神社へは、京福バス清水山線「坪谷」停留所を下車徒歩約 10 分。

3. 周辺

ふくい健康の森（真栗町）

マイドーム清水（真栗町）

清水南小学校（真栗町）

4. 参考文献など

旧清水町広報紙 H 元.5 月号

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 木造地藏菩薩立像

糸柱（いとまさ：木材の目が細くて密なもの）というすぐれた桧の一本造りで、おそらく割首、割はぎをした内ぐりと考えられ、中央仏師の作ではないかと想像されています。

1. 概要

清水地域内の仏像には未だ解らぬ部分が多く、若狭の影響や奈良からの流れなど、丹生郡全体に未知な点が多いといわれています。

特に坪谷神社地藏菩薩像は明治初年の廃仏棄釈（明治政府の神道優先政策）時に、朝日町馬場（ばんば）から、統合されたといわれています。この像の高さは 95.5cm、肘張り 31.5cm で、頭を丸め、声聞（しょうもん）の形をしています。

清水地域内には数少ない、すぐれた尊像と思われませんが、痛みがひどく、残欠像であることが大変残念です。

当時の県文化財保護委員の野村英一氏は、平安時代末期か、鎌倉時代に造られたと鑑定しています。

この像は、信心深き人により、財産家の協力を得て背に負われ、はるばる都（京都か奈良）から運び出され、朝日町の経済的文化的集合地であった馬場へ安置されたと考えるのもロマンティックではないでしょうか。

少なくとも 800 年以前もの昔の仏像が今日に残されていることは、大きな遺産といえましょう。

2. 交通アクセス

本立像が安置されている坪谷町白山神社へは、京福バス清水山線「坪谷」停留所を下車徒歩約 10 分。

3. 周辺

ふくい健康の森（真栗町）

マイドーム清水（真栗町）

清水南小学校（真栗町）

4. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.2 月号

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 木造観世音菩薩座像

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

像高 23 c m、両肩をおおう衣を着け、高い髻（けい）を結び定印を結んで座る観音菩薩です。衣のひだが厚くおおまかな表現であることや、高く筒略化された髻など形式化した特徴から室町時代後期の文明・天文年間頃（1469～1554）の製作とみられています。

1. 概要

電雲寺は、京都花園町にある禅宗妙心寺派本山末寺で、石泉山（せきせんざん）龍曇寺と言う。

寛永元年（三百六十五年前）福井藩主忠昌公（ただまさこう）菩薩寺の東光寺住職、瑞雲和尚を招き、開山。遠山和尚の創建した寺院と伝えられている。

昔島寺は、北陸道裏道の重要な分岐点に立ち、今も杉谷方面と小羽、風巻方面に通ずる分れ路となっていることから、重要な地点であったことがわかる。

竜雲寺の下には、幾段かに整理された敷地があり、二、三十戸の敷地があったものと考えられるが、近年、御堂に昇る道路が改修され、昔のおもかげは少ない。

観音響薩像は、間口二間、奥行三間の御堂に安置され、御本尊としてあつく信仰され、今日に至る。

2. 忘れ去られた寺 嶋山寺（とうさんじ）（しまやまでら）

片山町の方山真光寺と同じく、約五百五十年前の京都真言宗大本山東寺（教王護国寺）文書（もんじょ）の中に「丹生北部、三富郷、嶋山寺、東寺御修造奉加（ほうが）人数の事」というのがある。それに嶋山寺のお坊さんの名が次の様に書いてある。

遍照院法印杲桂（へんじょういんほういんこうけい）、法印賢澄（けんちょう）、法印惠賢（けいけん）、法印英禪（えいぜん）、権少（ごんしょう）僧都光偏（そうづこうへん）、権律師惠順（ごんりつしけいじゅん）、権律師賢盛（けんせい）、桂尊（けいそん）、桂俊、桂宗、桂乗、以上十一人。文安二年（一四四五）八月四日とある。

これは南北朝の戦等でいたんだ東寺の建物を、直す費用を寄附（奉加）した名である。

この寺には法印という、学徳優れ最高の位（くらい）を持ったお坊さんが四人も居り、その下に僧都・律師という高い役職を持った僧が三人居る。凡（ぼん）僧は四人である。

郡内（丹生郡）で東寺の末寺は、この外に織田剣（つるぎ）大神宮寺、朝日寺、天王王神（おうじん）寺（八阪）、片山真光寺があるが、法印四人というのは嶋山寺だけで、この寺は格式が高かったと思われる。

この嶋山寺は、真光寺と同じく創立も不明、しかも清水山合戦に焼き亡ぼされたのか、今ではその場所も名も忘れ去られてしまっている。

その後百五十年、江戸時代の寛永元年（一六二四）、福井の臨済宗（りんざいしゅう）東光寺瑞雲（ずいうん）和尚が、島寺公民館の西、山の中段に竜雲寺を建てた。この寺はその後無住の時もあり、明治の始廃（はい）寺となって小さいお堂が残っている。

その南の浄福寺は、更に四十年後寛文四年（一六六四）、栃川円福寺十代円淳（じゅん）の創立という。

ところでこの嶋山寺のあった所は何処か。恐らく敷地も広く飲み水も多い竜雲寺の所でないかと考えられる。

3. 清水地域の歴史の道標（みちしるべ）

(1) 嶋山寺（しまやまでら）と竜雲寺

島寺公民館の前、道を横切って石段又は新しく造った車道を登ると、広い寺地があり、真中に大日如来を祭った小さい竜雲寺の仏堂がある。この寺地の右側に、杉・竹の藪が続き、この藪の中を右前

へ進むと、土手前に次の写真の墓地が残って居る。

墓は上が丸いお坊さんの墓が一つと、不揃いの五輪塔（りんとう）・割れた石仏が沢山横一列に並べて置かれてある。五輪塔は地輪の四角な石と水輪の丸い後去られ残って居ない。

寺地の広場から左へ少し登りの車道が白山神社の境内迄付けられてある。この境内から在所へ降りる小さいお堂が作ってあり、その中に沢山割れた石仏が並べ祭られてある。

この石仏は、金重（かねじゅう）さんの近くの田を整理の際田の土の中から掘り出されたもので、村の人が勿体（もったい）ないと考え相談して、お宮さんの石段上横へお堂を建て、その中へ並べて祭ったものだという。（島寺町在住、面（おもて） 繁司氏の案内による）

(2) 嶋山寺（しまやまでら）と竜雲寺

二百年程前に書かれた、越前名蹟考（めいせきこう）に「千三百年程前、奈良時代に泰澄（たいちよう）大師が四万体の仏像を刻まれ、これを本尊に寺を建て、四万寺と名付けた。その後長い年月の間にしまん寺がしま寺と変った。」と書いてある。この泰澄大師の開かれた寺が、その後どんな移り変わりをしたが記録は残っていない。七百五十年後室町時代中頃、文安二年（一四四五）には真言宗東寺（しんごんしゅうとうじ）の末寺（まつじ）であった記録がある。

東寺は、京都駅の南に高い五重塔のある大きい寺で、平安時代の始弘法（こうぼう）大師が、天皇から建物を頂いて寺としたもので、東寺派の本山である。戦争等で寺が破損したのを直すため、末寺から費用を集めた記録の中に嶋山寺からのお坊さんの出し分も書いてある。（旧清水町史一口噺（11）参照）

それによると、住職は遍照院法印杲桂（へんしょういんほういんこうけい）。遍照院（へんしょういん）は京都嵯峨（さが）の遍照寺元住職に与えられた院号か。法院はお坊さんの最高の位である。杲桂（こうけい）の他に法印が三人、僧都（そうづ）・律師（りっし）等坊さんの頭だった役の人が三人。（越前の末寺約九十ヶ寺中、こんなえらい坊さんの多く居た寺はこの寺だけである。）それに杲桂の弟子と思われる方が四人、合計十一人。兼重さんの近くの参道に石仏が並べられ、そこから嶋山寺迄の間に十人のお坊さんの寺坊があったと思われる。この文安二年から二十三年後、越前の守護斯波（しゅごしば）氏の家老太田氏が守って居た清水山城を、朝倉氏が攻め落とした激戦に、嶋山寺も片山真光寺も巻き込まれて焼かれ、お坊さんは逃げて戻らず寺は無くなった。参道の脇にあった石仏は戦争の邪魔になったので下の田んぼに投げ込まれて土に埋まり、墓地の五輪塔だけ残ったと考えられる。

(3) 嶋山寺（しまやまでら）と竜雲寺

応仁の乱の頃、嶋山寺が無くなってから約百七十年、徳川太平の世の寛永元年（一六二四）越前藩三代を継いだ忠昌（ただまさ）が越後高田から入国した。その時、美濃の名僧瑞雲和尚（ずいうんおしょう）を招いて建てた高田の東光寺を住職とも福井勝見に移した。寛永十一年、遠山（えんざん）和尚が由緒ある嶋山寺跡へ竜雲寺を建て、東光寺の瑞雲和尚を開山として招き寺を開いた。その後鉄額（てつがく）和尚が跡を継いたが、暫くで寺は無住となった。

それから三十年程後、延宝（えんぼう）二年吉江藩主昌親（まさちか）が五代福井藩を継いで福井へ移ると、吉江の瑞源（ずいげん）寺を小山谷に移した。吉江瑞源寺は元、泰澄太師の古跡ですたれていたのを昌親が再興したものである。翌三年、小山谷瑞源寺の大忠徹（ちゅうてつ）和尚が、島寺竜雲寺を再興し、瑞源寺の末寺とした。住職は瑞源寺から派遣されていたと思われるが、今竜雲寺のお堂にある半鐘（はんしょう）に「天明元年三月島寺村石泉山（せきせんざん）竜雲寺?師現住黙（もく）堂」とかかれてある。

鳥寺村の古文書、天明四年十一月の村究連判（きめれんぱん）証文・同五年の百姓連判究証文・寛政十年（一七九八）同十一年の連判究証文の中に、竜雲寺又は略字で了雲寺と署名し捺印されている。なお、文政十三年（1830）四月の竜雲寺地所記録帳・竜雲寺再建記録帳も残されてある。

その後何時から無住職の寺となったか明らかで無いが、明治元年御一新の時、神仏混合禁止令が出され、無住の寺は取り壊しと言う事になり、同行の無い竜雲寺は、本堂庫裏鐘楼（くりしょうろう）等皆取り壊された。それで村の人は、山内為依（ためより）家の太閤（たいこう）秀吉を祭ったお堂の建物を譲り受けて建て、残された大日如来・韋駄天（いだてん）をお祭りした。登り口には「観世音菩薩」の石造標柱が残っている。（終）

4. 交通アクセス

京福バス清水グリーンライン（西田中行き）「島寺公民館前」停留所を下車、又は西田中宿堂線「島寺公民館前」を下車、徒歩数分。

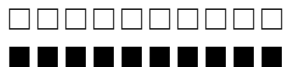
なお、本観音菩薩が安置されているお堂は、普段は閉まっています。

5. 周辺

ふれあいドーム（島寺町）
清水南公民館（風巻町）
清水図書館（風巻町）
清水郷土資料館（風巻町）
福井市きらら館（風巻町）
きららパーク（風巻町）
清水中学校（島寺町）
旧清水総合支所（小羽町）
マイドーム清水（真栗町）
ふくい健康の森（真栗町）
清水東公民館（三留町）
清水東小学校（三留町）

5. 参考文献など

旧清水町広報紙 H元.11月号 H4.4月号 H8.7月・8月・9月号
現地説明板



しみずっペディア 木造腹帯地蔵菩薩像

木造腹帯地蔵菩薩像は、像高 52cm、平安時代末期に中央で製作されたものとみられます。

1. 概要

像高 52cm、左手に宝珠を持ち、右手は中指と薬指を折り曲げています。整った優しい面相、衣の流麗な表現などから平安時代末期に中央で製作されたものとみられます。「帯附地蔵尊由来記（おびつきじぞうそんゆらいき）」によれば平野山地蔵院南朝寺（なんちょうじ）に安置されていた御本尊の御分身で、本尊は奈良時代の高僧行基（ぎょうき）の御作であったと伝えられています。

なお、地蔵菩薩の下衣の帯の結び目があらわれていることから腹帯地蔵と呼ばれ、安産の地蔵として信仰されています。

2. その他

腹帯地蔵尊像は安産の地蔵菩薩として、昔から近郷の人々に崇められています。

元南朝寺（なんちょうじ）にあった寺（平野山地蔵院）に安置されていて、本尊の御前立尊といわれています。この像は、室町初期頃の作（当初はそう考えられていました。）と推定されています。

像高は、五十二センチメートルで内ぐりがあり、寄（よせ）木造りの座像です。

左手に宝珠（ほうじゅ）（願いごとをかなえてくださる珠（たま））を持ち、右手は、中指二本を内に折り曲げた「知吉祥（きっしょう）」の印を結んでいます。背には宝珠輪光背（りんこうはい）という輪があります。

下腹部に裳（も）をつけ、その結び目が妊婦の腹帯のように見えるので、安産の身替り地蔵尊として昔から信仰されてきたようです。

像は、漆地の真っ黒な像ですが、首下に金箔が残っていて、ふくよかな慈悲のあふれた姿は、美術的にも価値の高いものです。

笹谷町の自治会長が大事に管理され、丹雄茂太郎さん（平成元年当時）が、お札の世話をしております。毎年、六十人ほど（平成元年当時）の妊婦が拝礼に来られるとのこと。

また、八月二十四日には、乗泉寺で、地蔵盆会（え）が行われています。

3. 南朝寺

笹谷の腹帯地蔵の由来を伝える古文書には、奈良時代に平野山地蔵院南朝寺という名の寺（笹谷に明治時代まであったと伝えられています）があり、そこに高僧「行基（ぎょうき）」が自ら彫った地蔵を安置していたこと、その地蔵が火災で失われたことが記されています。次いで幸いなことに地蔵の写しが残っていたので、室町時代の文安元年（一四四四）に貞勇和尚が南朝寺を再興したときに地蔵を安置したとされています。

さて、南朝寺のものと伝えられる仏像は二体が残っており、そのうちの一つが古文書にある地蔵です。しかし、古文書に記されているような奈良時代のものではなく、平安時代末頃の木像です。高さ五十二センチの座像で、ふくよかな良いお顔をしています。この像には下着の結び目があらわされているため、古来より安産の地蔵として人々に信仰されています。

古文書では地蔵が行基によって彫られたものであることを伝えていますが、これは江戸時代に流行した行基信仰の中で生まれた伝説である可能性を指摘できると思います。

また、南朝寺という名前から室町時代の南北朝の南朝とのかかわりを考える人もいます。しかし、腹帯地蔵の由来を伝える古文書に奈良時代の創建と書かれ、これに加えて平安時代の仏像が残っていることは、南朝寺と室町時代の南朝とが関係が無いことを示しているようです。

南朝寺は今ある資料から、平安時代の末頃に創建され室町時代に貞勇和尚が再興したことがわかっていますが、明治時代に廃寺となってしまいました。しかし、腹帯地蔵は人々の信仰のなかで今も守り続けられています。

その腹帯地蔵は笹谷区が管理していますので、見学を希望される場合は区に申し込む必要があります。

す。

残るもう一つの地蔵は鎌倉時代の、穏やかなお顔をした銅造の十一面観音座像の懸仏（かけぼとけ）（お堂の壁面に掛けるためのもの）です。

この懸仏については清水郷土資料館で展示していますのでぜひ足をお運びください。

4. 安置されているお堂

道の少し高台に腹帯地蔵尊と書かれた石標と石段が見え、石段を登ると近年建て替えられた真新しい立派なお堂があり、安産の地蔵さんとして信仰を集める腹帯地蔵さんが安置されています。

笹谷の腹帯地蔵さんは、明治時代はじめ頃までは南朝寺地蔵院に安置されていたもので、南朝寺が廃寺となったとき、笹谷の旧家が譲り受け大事にお守りしていました。その後、昭和のはじめに現在地にお堂を建てて安置し、町内でお守りしています。

5. 安産

本来は帯付地蔵と言い、下腹部に腰布と呼ばれる裳（も）を着け、その結び目が妊婦の腹帯のように見えることから、腹帯地蔵と呼ばれるようになりました。

毎年、正月には白米の洗い米をお供えし、妊婦がこの洗い米三粒をお札に包んで飲むとご利益があり、安産できるということです。

6. 交通アクセス

京福バス菜崎線「南朝時」又は「笹谷」停留所を下車、徒歩約 10 分。

7. 周辺

賀茂神社（加茂町）

清水西小学校（大森町）

清水西公民館（大森町）

睦月神事会館（大森町）

旧清水総合支所（小羽町）

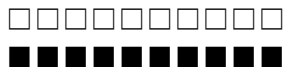
地域活性化施設（平尾町）

8. 参考文献など

志津の宝ものブック 志津の庄ふるさと探訪 2009年5月 清水西公民館発行

旧清水町広報紙 H元.9月号 H10.12月号

現地説明板



しみずっぺディア 片粕遺跡出土品一括

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

片粕遺跡は、昭和 47 年 7 月、片粕地積の住宅団地（グリーンハイツ）造成工事で発見されました。

1. 概要

昭和四十七年七月、片粕地籍の住宅団地（グリーンハイツ）造成工事にかかり遺跡が発見されたため調査が実施された。

多量の縄文土器・磨製石斧・打製石斧・石鏃・石錘・石匙・凹石・スクレイパー・石器原石等が出土している。しかし、遺構については検出されておらず、ムラの規模等については不明である。

縄文土器は北陸地方のものを主体としているが、中部高地および瀬戸内地方の影響を受けたものが認められるので、縄文時代の人々の交流の一端をうかがえる資料である。

2. 交通アクセス

片粕遺跡跡地へは、京福バス清水グリーンライン「清水北小学校前」停留所を下車、徒歩すぐ。現在の跡地には案内看板などは無く、住宅地となっています。

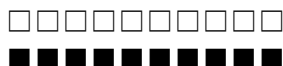
なお、清水郷土資料館において、出土品（展示品はレプリカです。）などが常設展示されています。清水郷土資料館へは、京福バス清水グリーンライン「清水プラント 3」停留所を下車、徒歩約 5 分、或いは、清水グリーンライン（西田中行き）又は西田中宿堂線「清水中学校前」停留所を下車、徒歩すぐ。

3. 周辺

- 清水北小学校（グリーンハイツ）
- 清水北公民館（グリーンハイツ）
- 清水東小学校（三留町）
- 清水東公民館（三留町）

6. 参考文献など

清水町の文化財 平成 5 年 4 月 旧清水町発行



しみずっぺディア 塚越遺跡出土鉄刀一括

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

塚越遺跡は、大正9年、土取りの際、遺物が発見されました。

1. 概要

大正九（一九二〇）年に土取が行われたさいに遺物が発見され、古墳が発見されたと伝えられている。

遺物は鉄刀一と素環頭の鉄剣一・碧玉製の管玉三であるが、土取り中の発見であるため本来の副葬品のすべてであるとは言えない。なお朱も採集されており、棺内に朱の用いられていたことが明らかである。

塚越遺跡はかつて古墳と考えられていたものであるが、副葬品の組成から弥生時代後期末のものと考えられる。墳丘が存在したということであるので、弥生時代の墳丘墓であったのだろう。

2. 交通アクセス

塚越遺跡跡地へは、京福バス清水グリーンライン「清水プラント3」停留所を下車、徒歩すぐ。現在の跡地には案内看板などは無く、きららパーク多目的グラウンドなどとなっています。

なお、清水郷土資料館において、出土品（展示品はレプリカです。）などが常設展示されています。清水郷土資料館へは、京福バス清水グリーンライン「清水プラント3」停留所を下車、徒歩約5分、或いは、清水グリーンライン（西田中行き）又は西田中宿堂線「清水中学校前」停留所を下車、徒歩すぐ。

3. 周辺

清水中小学校（島寺町）
福井市きらら館（風巻町）
きららパーク（風巻町）
清水南公民館（風巻町）
清水図書館（風巻町）
清水郷土資料館（風巻町）
ふれあいドーム（島寺町）
旧清水総合支所（小羽町）
マイドーム清水（真栗町）
清水東小学校（三留町）
清水東公民館（三留町）

4. 参考文献など

清水町の文化財 平成5年4月 旧清水町発行

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 甕谷村絵図

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

甕谷村絵図は、元文4年（1739）に作図された村絵図です。

1. 概要

甕谷区の屋敷及道橋等を描いた絵図である。元文四年（一七三九）に製図されたもので、縦一・四米、横一・五米の和紙に描かれ彩色されている。

道、川、橋等の位置は、現在とあまり変っていない。屋敷は、八十四ヶ所あり、おもに万福寺の奥、神明神社の北、坪谷川の左岸に集まっている。

現在の民家は大半東の平地に移って、奥の方には屋敷跡だけが残っている。

町内では最も古い貴重な村絵図である。

2. 交通アクセス

清水郷土資料館において、絵図（展示品はレプリカです。）が常設展示されています。清水郷土資料館へは、京福バス清水グリーンライン「清水プラント3」停留所を下車、徒歩約5分、或いは、清水グリーンライン（西田中行き）又は西田中宿堂線「清水中学校前」停留所を下車、徒歩すぐ。

なお、甕谷町へは、京福バス清水グリーンライン（西田中行き）「甕谷」停留所を下車、又は西田中宿堂線「甕谷」を下車、徒歩すぐ。

3. 周辺

清水中小学校（島寺町）

福井市きらら館（風巻町）

きららパーク（風巻町）

清水南公民館（風巻町）

清水図書館（風巻町）

清水郷土資料館（風巻町）

ふれあいドーム（島寺町）

旧清水総合支所（小羽町）

マイドーム清水（真栗町）

清水南小学校（真栗町）

ふくい健康の森（真栗町）

4. 参考文献など

清水町の文化財 平成5年4月 旧清水町発行

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 大杉（毘沙門堂大杉）

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

大杉（毘沙門堂大杉、清水山町）は、毘沙門堂のすぐそばに立っています。樹齢は約 600 年と推定されています。

1. 概要

清水山の通称毘沙門様と呼ぶ低い丘の上に根廻り 5.9 メートル、目通り 3.9 メートル、高さ 20 メートル、枝張り東西 16 メートル、南北 15 メートル、地上から 4、5 メートルのところまで枝が分かれ、周囲に伸びている。樹齢約 600 年と推定されています。

なお、この丘は、足利時代から豊臣秀吉時代にかけての武将、太田美作守（おおたみまさかのかみ）小源吾（最後は太田一吉）の居城の跡と云われ、昔は日野川が今のように真っすぐではなく、大きく三尾野の方へ曲がって、今の何倍かの敷地で小高い丘だったと云われています。その守護神として毘沙門堂がありその境内に杉の森があったと思われます。木は何も語ってはくれませんが、永い歴史を眺めて来た事でしょう。現在の丘にも井戸跡と思われるところや、舟付き場か濠の跡と思われるところが残っています。皆さんも一度現地を尋ねて遠い昔の戦いの跡をしのんでください。

2. 近くに建立されている碑

朝倉時代（西暦 1400—1500 年の武将太田家（判明する城主は太田美作守、太田小源吾）の城が此の丘に* 守護神として毘沙門様が祭* れ* 今日に至った。記録によれば清水山合戦（1480 年）の歴史も残している。以後定出垣内の氏神になり祭日は毎年九月 1 日昭和九年堂を再建したが神木の杉の根が堂を浮かし傾き出したので現在の場所に移築この碑を建立する。

移転月日 昭和 54 年拾月吉日

※ * は、風化によって読み取れない部分

3. 交通アクセス

本大杉へは、京福バス清水山線「清水山」停留所を下車、徒歩約 5 分。なお、本大杉の植生地は、清水山城跡でもあります。

4. 周辺

清水南小学校（真栗町）

ふくい健康の森（真栗町）

マイドーム清水（真栗町）

5. 参考文献など

旧清水町広報紙 H2.11 月号

現地説明板

□□□□□□□□□□

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

しみずっぺディア 鼓岩

※概ね参考文献のとおりのため、「ですます」調と「である」調が混在しています。予めご了解願います。

鼓岩は、中新世中頃形成地層の露出岩です。

1. 概要

清水区（清水町）の南西方細坂峠の近く、西山地籍雑木林の中、標高二十五米位の山の中腹に露出している岩である。

凝灰岩質粗粒砂礫岩で上方は高さ二米 幅 五米鼓の形に似ておりその下に高さ〇・七米 縦四・八米 横三・一米の太鼓形の岩が露出している。

新世代第三紀、中新世中頃形成地層の露出岩で推定千五百万年前の珍しい形の露出水成岩である。

2. 交通アクセス

本岩へは、京福バス栞崎線「志津川橋」停留所を下車、徒歩約 30 分、又は、清水グリーンライン「清水台保育園」停留所を下車、徒歩約 40 分。

なお、なお、本岩は私有地に立地しています。

3. 周辺

清水北小学校（グリーンハイツ）

清水北公民館（グリーンハイツ）

清水東小学校（三留町）

清水東公民館（三留町）

旧清水総合支所（小羽町）

4. 参考文献など

清水町の文化財 平成 5 年 4 月 旧清水町発行